

病気の話 がんの早期発見



医師 向坂 英樹

今回のテーマは、誰もが心配する「がん(癌)」のお話です。「がん」とは、体にできる「でもの(腫瘍)」のうち、無秩序に大きくなり(増殖)、周囲を巻き込んだり(浸潤)、血管やリンパ管の流れに乗って体のあちこちに飛び散ったり(転移)して、体を蝕んでいく病気で、手で触る岩のようにごつごつしています。風邪や下痢のように采糞と休養で自然に治ることはなく、治療しなければ悪くなり、最後は命を奪ってしまいます。

かつて、戦後しばらくの間、日本人は肺炎や結核などの感染症で亡くなることが多かったのですが、衛生環境の改善や、抗生素質の発見など医療の進歩により、感染症が治療できるようになり、世界に誇る長寿の国民になりました。そして現在の日本人のおもな死因は「心血管疾患」(主に急性心筋梗塞)、「脳卒中」(脳出血や脳梗塞)と「がん」になりました。

そのなかでもっとも多いのが、「がん」です。厚生労働省が発表した平成12年の統計によると、日本人の全死因に占めるがんの割合は男性31%、女性28%でした。ちなみに脳血管疾患は男性14%、女性17%、心疾患は男性14%、女性15%です。

ところで、がんはなぜできるのでしょうか。がんは細胞の中の遺伝子が放射線や紫外線、発癌物質、ウイルスなどにより傷害されることで発生します。放射線は原子力発電所や医療機関のレントゲン検査などで使われていますが厳重に管理されており、普通、被爆はわずかです。紫外線は、お肌に敏感な若い女性は詳しいと思いますが、日光に含まれ、たくさん浴びると皮膚がんをおこします。特に皮膚の色素のうまい白色人種は、皮膚がんに罹りやすく、長袖や日焼け止めクリームなどで対策しています。

一方、発癌物質はわれわれの生活環境にたくさん存在します。たとえばタバコに含まれるコールタールや、建築に使われるアスベストが有名ではないでしょうか。一部の白血病やリンパ腫、子宮頸がんなどはウイルスによって引き起こされます。

このようにして、われわれの気づかないうちに遺伝子が傷つけられた細胞は、暴走はじめ、体の中で分裂・増殖を始め、何億個もの細胞の塊になり、文頭に書いたような方法で、体の中に広がっています。

最初、がんが小さなあいだは、痛みや出血など、自覚症状はありませんので、体の表面でできない限り気が付きません。そして、この時期は、まだ浸潤や転移をしていないことが多いので、治療もやりやすいのです。ですから、この時期に見つけることができれば、治療も効果的で助かりやすいといいます。逆に、体に広がってからでは、治療も複雑で長期にわたるので、仕事も休まないといけないし、治療費もかかることになり、肉体的にも精神的にも負担が大きくなります。

したがって、がんは早く見つけるに越したことはないのですが、残念ながら早期には症状がないので、だれも病院を訪れてくれません。したがって、あえて、がんができるか検査する必要があります。この検査は「がん検診」と呼ばれています。

ところで、がんは体のあらゆる部分に発生するのですが、特によくできる臓器があります。男性の場合は、肺、胃、大腸(結腸・直腸)、肝臓、すい臓、がんによる死因の約三分の二に達します。女性では、これらに乳癌と子宮がんが加わります。

大阪市では、これらのがんのうち、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんの検診を医療機関に委託し市民に受診を促しています。検

新卒スタッフ紹介/今春に卒業したてのフレッシュな新人さんです。皆様、よろしくお願ひいたします。



理学療法士
名前:菊地 淳
(きくじ じゅん)
出身地:兵庫県
出身校:大阪府立看護専門学校
趣味:音楽、漢語



薬剤師
名前:吉田 昇平
(よしむら こうへい)
出身地:兵庫県
出身校:北陸大学
趣味:釣り、卓球



看護師
名前:山下 直子
(やました なおこ)
出身地:長崎県
出身校:大阪府立看護専門学校
趣味:読書



看護師
名前:久保田 絹里花
(くぼた えりか)
出身地:長崎県
出身校:大阪府立看護専門学校
趣味:食べること

診ではそれぞれのがんに特徴的な症状がないか問診を行い、身体の診察や検査を行います。検査で行う検査は比較的体への負担が少ないものがほとんどで、もしそこで異常が見つかれば、精密検査を受けることになります。ちなみに、当院では子宮がん以外のがん検診を受けられます。以下に当院で行っている検査とその方法を簡単に説明します。

胃がん検診はバリウムという、検査用の薬を飲んで、撮影台の上でぐるぐると体を回しながら色々な方向からレントゲン撮影を行い、胃が変形していないか調べます。もし、この検査で異常が見つかれば、内視鏡検査(胃カメラ)で観察し、怪しいところは組織をつまんで、顕微鏡検査でがん細胞がないか調べます。

大腸がんは、その表面から少しずつ出血することが多いので、便に含まれるわずかな血液を探します。(これを「便潜血検査」といいます。) 便そのものを持ってくるわけではなく、検査器具で便のサンプルを探ります。もし、陽性であれば注腸検査や、大腸の内視鏡検査で大腸がんからの出血かどうか調べる必要があります。がんが見つかることもあれば、痔が見つかることもあります。

肺がんの検査は、胸部のレントゲンと痰で調べます。痰の検査は朝一番の痰の中に、がん細胞が混じっていないか顕微鏡で調べます。

乳がん検診は、乳房の皮膚の状態としこりがないか診察し、超音波検査やレントゲン検査を行います。乳房のレントゲン撮影方法は独特で「マンモグラフィー」といいます。乳房を撮影台の上でうすく引き延ばして撮影します。引き伸ばすときに痛みを感じる人もいますので、検査のなかでは、これが一番苦いへんかもしれませんね。ですが、乳がんは早く見つければ、治療成績もよく是非受けでもらいたい検査です。また乳がんは数少ない外から触れることができるのがなので、検査だけではなく、入浴などに乳房を調べてしこりを探したり、皮膚の変化を見つけたりする「自己検査」もとも役に立ちます。もし、これらの検査で乳がんの可能性があれば、注射器で怪しい部分の細胞を取り取って、顕微鏡で調べます。

大阪市の検診ではないのですが、肝臓がんは、罹りやすい人たちを重点的に調べます。ウイルス性慢性肝炎や肝硬変の患者さんの肝臓にできやすいので、これらの病気を持っている方にはだいたい3ヶ月おきに超音波検査やCT検査をおこないます。また、肝臓がんができると血液の中にAFPやPIVKA-IIというがんが作るたんぱくがでてくるので、定期的に上昇していないか調べます。

このようにして、われわれの気づかないうちに遺伝子が傷つけられた細胞は、暴走はじめ、体の中で分裂・増殖を始め、何億個もの細胞の塊になり、文頭に書いたような方法で、体の中に広がっています。

これらの検査によって早期にがんが見つかり、治療を早く始められたおかげで、がんが治った人はたくさんいますが、残念ながらどの検査も100%見つけられるわけではないことも事実です。がんは小さいと検査でもわかりません。したがって、検査は、一度受け「異常なし」だったからといって、安心せず、毎年繰り返し受けてください。また、検査で丈夫だったとしても、おかしな症状が続けば受診することを忘れないようにしてください。

余談になりますが、近頃、「PET検査」という言葉を、新聞などで見かけた方はおられないでしょうか?これは、一度に全身のがんを探す検査です。すい臓や子宮体部など、通常の検査で調べることができないがんが見つかります。これは、がんに集まりやすい物質を注射したあと、どこにその集まりがあるか調べます。PET検査では、臓器によりも多くがんにがんが育つといわれています。ただ、この検査装置は高価で大掛かりなため、大阪でも限られた医療機関にしかなく、主に人間ドックでほかの検査と一緒に行なったり、すでにがんと診断された方の経過を見たりする目的で用いられています。

大阪市では、これらのがんのうち、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんの検診を医療機関に委託し市民に受診を促しています。検



FUKUSHIMA HOSPITAL

FUKUSHIMA INFORMATION 2006 SUMMER



福島インフォメーション

地域に密着した良心的な医療を提供する事を使命としています。

■運営
医療法人永壽会
福島病院
〒960-0012 大崎市大崎町千代田24-222
TEL:06-6963-2940(代)
FAX:06-6963-2918
ホームページ:www.yosai.or.jp
■開院日/平成16年6月

理念

24時間いつでも誰でも気軽に利用できる、地域に密着したコンビニ型病院(皆様病院)をめざす。

基本方針

正確な診断に基づいて最適な医療機関での治療をめざす。

幅広い患者のニーズに細かく対応して、患者だけでなく従業員自身も安心して知人や身内を紹介できる病院をめざす。

福島病院患者の権利

◆医療を受ける権利◆

患者は、いつでも、必要かつ十分な医療サービスを受ける権利があります。また、医療保障の改善を、国や地方自治体に要求する権利を有します。

◆知る権利と自己決定権◆

患者は、自己に関する病名、症状、検査や治療の方法とその危険性、代替手段、経過や予後の薬の内容や副作用、費用等について十分な情報や説明を受け、理解し自らの意志に基づいて治療方法等に同意、選択、拒否する権利を有する。

◆プライバシーを保護される権利◆

患者は個人の秘密や医療に関する個人情報を保護されるとともに干渉されない権利を有します。

◆学習する権利◆

患者は健康や、病気、医学知識や医学制度、福祉や社会保障制度等について学習する権利を有します。

◆医療参加の権利◆

患者自らが、医療従事者と共に医療社会発展のため医療に参加する権利を有します。

【広報係より】

いつも当院広報誌のご愛読ありがとうございます。梅雨の季節に入りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?平成18年度も福島病院は、「皆様病院(コンビニ病院)」の理念のもとツツツと頑張っていきたいと思っております。今号は内容を増量してお届けしております。お楽しみ下さい。

それでは次号(12月号)に向けて色々情報収集をしてまいりますので、ご期待下さい。

*当院は患者さんの個人情報保護に全力で取り組んであります。個人情報の取り扱いについてお気づきの点は窓口までお願いします。

新入職員紹介

新伊藤弘子(いとうひろこ)

看護師 2005年1月6日入職

西脇明子(にしづき あきこ)

看護師 2005年1月6日入職

山下千鶴子(やましたちひこ)

看護師 2005年1月6日入職

事務員 2005年4月11日入職

久保田絵美(くぼたえみ)

看護師 2005年4月11日入職

有瀬雅(うらせ まさみ)

看護師 2005年4月11日入職

中田和子(なかだわくこ)

看護師 2005年4月11日入職

柴原加(しばはら か)

看護師 2005年4月11日入職

鈴木麻理(すずき まり)

看護師 2005年4月11日入職

吉田昇平(よした しげひら)

看護師 2005年4月11日入職

新入院・救急搬送患者数報告

新入院

(H17.11月~H18.4月)

平成17年 125名

11月 125名

12月 156名

平成18年 12月 78名

1月 127名

2月 113名

3月 138名

4月 126名

合計 783名

救急搬送

(H17.11月~H18.4月)

平成17年 平成17年

11月 48名

12月 78名

平成18年 平成18年

1月 59名

2月 47名

3月 47名

4月 56名

合計 335名

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
内科診A 1診	小林	川畠(糖尿病)	廣峰(糖尿病)		
内科診B 2診	辰巳	池淵	辰巳	池淵	榮
内視鏡室	南	高橋	南	高橋	各医師
各医師 3診	向坂	各医師	各医師	各医師	各医師
内科診A 1診	福島	福島	福島	福島	
内科診B 2診					
内視鏡室					
各医師 3診					
薬剤・コルセット		西本(整形)			
1診	高橋	辰巳	小林	榮	
2診	南	高橋	南	高橋	各医師
内視鏡室	各医師	各医師	各医師	各医師	各医師
各医師 3診	福島	中井(整形)			
薬剤					
1診					
2診					
内視鏡室					
各医師 3診					
福島					

平成18年5月10日より川畠医師の診療時間が火曜日から水曜日に変更になっております。

また、内科診療室Bができました。(従来の内科診療室は内科診療室Aに名称変更)

平成18年6月現在

お知らせ



適切な栄養管理について～NST導入にあたり～

栄養士 植吉 弥生

当院では、重症心身障害児学園、パルツア・ゴーデル病院副院長 稲野(たなの)博文先生のご指導のもと、平成18年1月よりNSTの活動を開始しました。このNSTとは何かと言いますと、N(Nutrition) S(Support) T(Team) の略で、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・栄養士など職域の異なる専門職のメンバーが意見を出し合い、患者さんに適切な栄養管理を行うためのチームのことです。これまで病院の治療「名医」「良薬」という意識でしたが、それに「生きる源」である「食」を加えて医療を考えていこうということです。

食事はカロリー摂取のみを視点に考えると、長い年月の間に体のどこかに異常を引き出します。例えば食事摂取量の極めて少ない場合など、「なぜ食べられないのか?」、「この病状に適した栄養管理とはどのようなものなのか?」など現時点での体に必要な栄養素を摂取していただけるよう、食事・点滴・内服薬など様々な組み合わせを事前検討し、回診時に対象患者さんと相談の上、適切な栄養組成並びに投与経路が決まります。もちろん経口摂取が第一選択です。

適切な栄養管理を行なうことにより①疾患罹患率・死亡率の減少②病院スタッフのレベルアップ③医療安全管理の確立とリスク回避④栄養素材・食事形態の適正な選択⑤在院日数の短縮と入院費の節減⑥在宅治療症例の再入院や重症化の抑制があると言われています。

NSTを学習していく中で、自分の意志で食事をすることにより消化・吸収の効果が上がり、免疫力が高まるなどの大切さを改めて実感しています。今後NSTによる活動が、皆様の早期回復に役立ち、元気に退院していただけるよう頑張っていきたいと思います。

西田病棟看護師副主任に



3階病棟看護師副主任 西田聰子

今回は3階病棟で活躍中の、西田看護師副主任さんに突撃インタビューしてまいりました。

Q1:まずは御名前と出身地、ご家族は?

A1:西田聰子(にしだあさこ) 大阪府出身で家族は4人です。

Q2:入職されてどれくらいですか?

A2:(ちょっと考えて…)ひ・み・つ!

Q3:それでは趣味や最近遊んでいるものなどがあればお願いします。

A3:特に趣味はありませんが、休みの日に娘とショッピングに出かけたり、娘が少年野球をしているので、試合の応援に行くのが楽しみです。時々キャッチボールの相手をさせられます。(笑)

Q4:4階病棟の柏木副主任さんは同期で、人の仲良しだとお聞きしますが、どういった印象ですか?

A4:本人は「無口で物静かだと言っておいて」と言っていましたが、その反対でとてもお喋りでパワフルな人です。

Q5:3階病棟スタッフはいかがですか?

A5:仲がよく明るく楽しいスタッフが多いです。また仕事もテキバキとこなしていると思います。

Q6:看護師としてのモットーなどを聞かせていただきたいのですが。

A6:「思いやりの心と笑顔」

中学卒業時の担任の先生から「自分がしてほしいと思ふことを人にせよ。」というメッセージを頂いたのですが、看護師になってよくこの言葉を思い出します。

Q7:最後にこれから福島病院はどのように成長していくべきでしょうか。また飛躍していかなくてはいけないでしょうか?

A7:地域のニーズに応える医療、安心・安全、信頼の医療を提供するため、知識、技術、人間性の向上に努めていかなくてはならないと思います。

原稿にご協力頂きありがとうございました。西田副主任さんの活躍に期待しております。

おすすめメニューのコーナー 新コーナーです。栄養士さんおすすめのメニューをご紹介いたします。栄養士 諸妻礼子

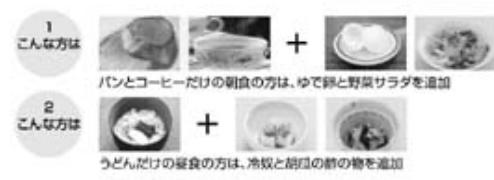
「栄養バランスのよい食事を心がけて」

品数が少ないと、どうしても偏った栄養素を取っていることになります。栄養バランスの悪い食事になります。

■おすすめする「バランスのよい例



主食(ごはん・パン・麺)+主菜(肉・魚・卵・豆腐)+副食(野菜・海藻・豆類・果物)を1~2品とりましょう。



この様に少しの改善、工夫で生活習慣病の予防に役立てることが出来ます。栄養バランスのよい食事を心がけましょう。

胃カメラを樂に受ける方法

「当院における検査手順について」(経鼻内視鏡)…③

前回は「胃カメラ(ファイバースコープ)について」お話ししました。よくお預かりになりましたでしょうか? 第2回目は「当院における検査手順について」です。

ここでは検査手順を説明形式で紹介してみました。皆自分が検査を受けているつもりで御読みください。

《プロローグ》

私は40歳の女性サラリーマンです(A氏とします)。先日成人病検査を受け、パルツア検査で「胃癌の疑い」と診断されました。

「なんにこった、この私が胃カメラをすることがあるなんて…」

このところ残業、運動でストレスを感じ、食事の後も胃もたれがあつたので、市販の薬を飲んでいました。今日説明してくれた先生は「最近は技術が向上しているので胃カメラなんて苦し

くないですよ。」と言つたけれど、同僚に聞くと無理苦労しかつたとか…A氏は初めての検査に不安な様子です。

《検査前日》
「よいよい明日検査だ。誰かに会う度に「今度胃カメラを受けんす」と面々に公言してきました。その手前後にはいけない!」

原発を決めたA氏は検査の実際には目を通しません。そこには「夕食は8時くらいまで済ませ下さい。アルコール類は控えて下さい。水分(お茶、お水など)は毎日8時くらいまでは可能です。」と記載されています。

「食事の時間は8時から11時位で食事をみたい」とあります。

「食事は8時から11時位で食事をみたい」とあります。

「夕食は8時くらいまで済ませ下さい。」と記載されています。

「水分(お茶、お水など)は毎日8時くらいまでは可能です。」とあります。

「食事の時間は8時から11時位で食事をみたい」とあります。

「夕食は8時くらいまで済ませ下さい。」と記載されています。

「水分(お茶、お水など)は毎日8時くらいまでは可能です。」とあります。